



# 八千代オイコス かわら版 第49号

令和6年3月15日発行  
八千代オイコス  
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

## 2024年の抱負 花輪川整備を中心に据えて

八千代オイコスの活動の原点は、花輪川を綺麗な水の流れる、市民の方の憩いの場としたい、という思いから20数年活動しております。

花輪川のゴミの撤去、流路の手入れ、遊歩道の清掃、花壇への植栽とメンテナンス。作業中に、地域の方、散歩の方から、声を掛けられ、ねぎらいの言葉をいただきます。

今年の抱負は、市民参加型の行事に加えて、ベースワークである花輪川の環境改善に一段と取り組みたい。それには、地域の方、市民の皆さんに積極的に協力をいただく働きかけに力を入れて行きます。

年齢問わず、まず、花輪川に来て下さい。身体を動かし、注いだ力が、きれいな環境となって実感出来ます。お待ちしております。

八千代オイコス代表 金室 彰

## 元日を襲った能登半島地震

時は途切れることなく続き、私たちは、昨日から今日へと繋がっている事をあまり意識しません。

しかし、日本人にとって、大晦日から元日、そして三が日は、新しい年を迎えた、という特別な意識があります。

特にこの年末年始はコロナ禍で出来なかった、家族が集まり、談笑し、新しい年を祝うという、当たり前の事が、4年ぶりに全国の家庭で祝われた特別な日でした。

団らんを楽しんでいた、元日の夕刻、能登半島を無情の地震が襲い、後に分かった事ですが、6メートル近い津波も襲来しました。

厳冬期での災害は厳しく、被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

復旧、復興には時間を要するという報道を目にしますが、被災地から離れて暮らしている私たちは、ボランティア、物品を送る、募金に参加する、など、自分に何が出来るのかを考えて行動する事が求められます。

月並みですが、早い復旧、復興を願います。

スタッフ 小林

## 2024年八千代オイコス活動計画

今年も市民の皆さんに参加いただける行事を計画しておりますので、是非、ホームページをチェック下さい。

毎月第二日曜	花輪川整備作業
5月～9月	米づくり体験
7月	川の学校 in 花輪川
5月、10月	清掃活動ウォーク
8月	ホテル鑑賞会
年2回	ボランティアカフェ





## 2023年米づくり体験 伝統民俗行事 わらへび作り

2023年11月19日(日)晴れ

朝からたっぷりの日差しで小春日和の日曜日、八千代市農業交流センター研修室を借りて「わらへび(辻切り=ツジギリ)」作りを行いました。体験家族8家族23名とオイコススタッフ9名が参加しました。

辻切りは、悪霊や病気が村に入るのを防ぐための民俗行事です。各村の出入口にあたる四隅の辻を墨力によって遮断することからこの名がつけました。悪霊や病気を遮断する方法は千葉県南部はしめ縄を道に張る方法が多く、北部は藁(わら)で大蛇を作ってその尻尾(じゅりょく)によって追い払う方法がとられています。毎年、八千代市立郷土博物館にて公募で講習会を開催しており、昨年参加した内容を持ち帰り手順書を整備してオイコスでもチャレンジすることにしました。

材料の「わら」は先月10月1日(日)脱穀を実施した際に確保した「もち米のわら」の「はかま」を取り除いて用意しました。「辻切り」由来解説および一連の手順説明と実演の後、各家族ごとに約1時間わらへびの制作を行いました。まず、へびの頭作りは1組(5本)の縦わらと7組(3本づつ)の横わらを互い違いに組んで、それを2つ「へびの頭」と「へびのあご」を作ります。次に、「へびの胴体」のわらを頭とあごに挟んでわらの束を3本に分けしめ縄の様に縛(な)います。仕上げに「へびの胴体」部分の凹凸をならして、飛び出ているわらをハサミで切り落とし、赤とうがらしの目と舌を削りて出来上がりです。部屋飾り用に小さめの「わらへび」や、頭のスリムな「わらへび」など皆さん個性的な「わらへび」を上手に作る事ができました。 スタッフ 宮竹

### 初のわら蛇作り

小学6年生 久保 甫奈菜(まなか)

令和5年11月、わら蛇作りに参加しました。最初の説明の時、「難しそうだな、できるかな?」と思いました。でも、説明書を見ながら進めると、意外とすぐできました。

母と祖母は苦戦していて、私と弟に「ええ、できた〜?・・・え!もうそんなにできたの!?どうやったの?」と、聞いてきました。

私は、自分の作業に集中したかったので、弟が母と祖母に教えていました。あと、はじめて知ったことは、わら蛇は、ツジギリと言うそうです。ツジギリは、悪霊や病気が村に入るのを防ぐための民俗行事で、各村の出入口に当たる四隅の辻を墨力によって遮断することからこの名前がついたそうです。

お米を苗から作って、最後にその藁でわら蛇まで作ることができて、農家さんの大変さや機械の便利さ、そしていろいろな工夫がわかって良かったです。家に帰ってから、もらってきた藁で亀を作りました。とっても貴重な体験をありがとうございました。



### わら蛇作り体験記

佐藤 千里

ツジギリについては、6年前に八千代市に越して来た時に近所の電柱に丸めた縄が架けられていたのが気になり調べてみたところ、この辺りでは地域の境界に魔除けの為にワラで作った蛇などを取り付ける慣習があると知りました。

その後車の運転中に実際のワラへびを目撃して感動したりしておりましたところに実際に作ってみる事が出来るという事で、早速飛びついたので昨年の郷土博物館でのワークショップでした。

と言う訳で実はワラへびを作るのは2度目なのですが、一年経つと全く手順も忘れており、手を動かして行く中で徐々に思い出しつつ嬉々として作成しております。

胴体にする縄をなうのがなかなか難しいのですが、綺麗により合わせて行くのがとても楽しかったです。完成した蛇は部屋窓の上に飾るのであるの、きっと我が家の魔除けになってくれる事でしょう。

今年はオイコスの米づくりに参加し、米づくりに関する様々な作業を地元八千代で体験する、という貴重な経験させて頂き本当に有難うございました。

### 科学を育む自然の中での環境活動

佐々原 宏

私は中学一年の息子をもつ会社員です。平日は東京までラッシュの東西線で通勤しています。そして週末は、この八千代オイコスの活動をはじめ、千葉市の里山保全や、博物館や科学館主催のイベント(フィールドワーク等)に参加したりして過ごしています。正直しんどい日もありますが、これらの活動は息子と私の貴重なコミュニケーションの場となっているのです。もちろん、私自身の良い気分転換でもあります。八千代オイコスのような市民活動、地域活動への参加理由は様々あるでしょうが、私の場合は子育ての一環という位置づけが大きいです。

#### 【科学好きな子供になって欲しい】

文系の私は、息子が科学好きになって欲しいなあと勝手な希望を持っています。期待通りに息子は、幼児の頃より図鑑や科学(特に生き物)の本が大好きでよく読みます。カタカナは恐竜図鑑で覚えてくれ教えていません。我が家は、もっぱら図書館の本を活用させてもらっています。息子は毎月必ず30冊以上の本を借りて読みます。お陰で書物からの知識はだいぶ得ているようです。

#### 【ミュージアムをうまく活用しよう】

図書館の利用とともに、博物館や科学館、動物園等へよく連れていきました。私の子供の頃と違い、今のミュージアムは展示だけでなく、講演や参加型のイベントに力を入れています。(残念ながら予算は削られていますが)知的好奇心をくすぐる企画や演出があり、子どもも大人も楽しめる所が多いですね。ミュージアムのイベントや講演会に参加した際は、館の研究員、講演者である研究員、講演者である研究者や教師の方々とも積極的に話をするようにしています。そこで色々な情報をいただくことで、そこからまた知識や人脈が広がることがあるのです。八千代オイコスや千葉の里山もそうした中で繋がった活動です。

## 2023年米づくり体験

### 餅つき会

2023年12月17日(日)晴れ

#### みんなで作ったもち米によるもちつき会

小学校2年 飯島 優成

みんなでがんばって作ったもち米を使ったおもちがおいしかったです。もちもちしていました。あんこをつけて食べたらおいしかったです。納豆もあってびっくりしました。おもちをついた時にけっこう力があるんだと思いました。あんなに大変だとは思っていませんでした。とんじろのお肉がプルプルしておいしかったです。お米づくりは大変だったけどおいしいお米のために来年もやりたいです。



### 餅つき会に参加して思うこと

稲作の始まりは何時代?でしょう。

第二次世界大戦後の日本では家族構成が、がらりと変わり、核家族では「餅つき」は出来なくなりました。隣近所、町会毎、都会では大家さん中心に、一つの文化として、風習としてありました。収穫の時、お祝いの時、年越しの時、等理由をつけて餅つきの行事が行われていたようです。

日本独自の文化ではないでしょうか!

「餅つき」の行事を後世に残す、引き継ぐのは今の人の務めではないでしょうか。

この行動を行っている、「オイコス」の活動に、賞賛・感動致します。

1/7(日)「祝・成人」の目的で我らの町会で船橋市在住の米国人女性英語教師を交えて「餅つき大会」を行いました。良い交流会になったと自賞しています。

スタッフ 金田

#### 【知識を補完する環境活動】

読書やミュージアム観覧は大切ですが疑似体験です。そこでここ数年は、息子とともに環境保全活動に参加し、出来るだけ自然に接する機会を得ています。今どれだけ本来の自然が残っているか疑問ではありますが、少なくとも八千代市の郊外には里山や田圃風景がまだ残っています。そこで昆虫を捕まえたり、川に入って小魚や水生生物を網ですくったり、土を耕して作物を育てたりし、実体験につなげる事が出来ると考えています。半分遊びながらも自然を維持する作業からの学びは、本で学ぶことより大きいと信じて、息子と一緒に活動を続けています。

#### 【環境活動に科学の視点を】

大人達に混じっての(世代を超えての)活動は、今後のコミュニケーション育成にも役立ちます。書物やミュージアムで学んだ科学を地域や環境活動に活かしてくれたら、私の希望は十分に叶えてくれることになります。

息子にばかり期待を押し付けてはいけませんね。私自身にとっても地域活動は、健康維持に、定年後の過ごし方にもつながる良い体験だと思っています。





## 船橋のホタルと私たちの活動

船橋ほたる観察会 事務局：安齋 司

「船橋にホタルが生息していることをご存じですか？」と環境イベントなどの来場者に質問すると…ほとんどの方は「運動公園で見たことある」か「えっ！船橋にホタルいるの！」と答えが返ってきます。運動公園のホタルは船橋市が毎年業者からゲンジボタルを購入し、1週間ほど公開しているだけで、ホタルが産卵しても飼育していないこと、市内には20か所ほどヘイケボタルが生息していることを説明すると、皆さんビックリします。

2018年、船橋市北部の神崎川流域にホタルがいると聞き、ヘイケボタルの観察を始めました。2023年は市内8河川24カ所を6月上旬から9月中旬まで16週間、週1回夜間観察したところ、6河川18カ所でホタルを確認しました。市内ヘイケボタルはその他に、2022年に1回だけ（23年は確認できなかった）の確認地1か所。東葉高速鉄道日大前駅付近の坪井町で地元の「坪井湿地を復活する会」が、開発前に生息していたホタルを人工飼育して、開発後に調整池などの湿地に幼虫放流している2か所。夜間観察許可が得られない市施設内1カ所を含め、8河川22カ所でヘイケボタルを確認しています。

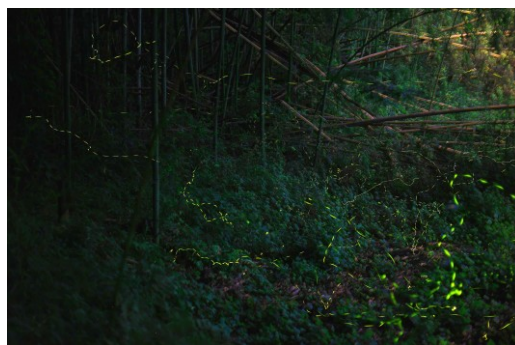
ちなみに船橋市は新京成線を境にして、北東側が印旛沼水系の神崎川流域と桑納川流域、南西側は東京湾に流下する真間川水系と海老川水系に別れていますが、その4河川水系流域全てにヘイケボタルの生息地（真間川水系の生息地は市川市）があります。

船橋ほたる観察会は、夜間観察以外に生息地の生息環境調査、ゴミ拾い、草刈り、観察路整備、新たな生息地を探すための情報収集や現地調査。坪井湿地を復活する会と共同で生息地水温調査や、船橋市北部地域で里山環境保全活動をしている行々林せせらぎの森と共同でビオトープづくり。私たちが3年間観察しても生息確認できていない神崎川支流二重川流域の観察地（20年前に生息記録有り）では、地元町会長からホタルを復活させて欲しいと要望があり、この春幼虫放流するために隣接生息地のヘイケボタルを飼育中です。桑納川支流木戸川流域では市の河川整備計画に協力しようと植生観察などの予備調査を始めています。県内ヘイケボタルのDNA分析に取り組んでいて、各地域団体や市役所担当部署、かずさDNA研究所などの協力を得て、2020年度21年度は県北西部7市21地点について県立松戸南高校科学研究部と、2023年度は県北東部と中部の4市6地点について県立安房高校生物部とDNA解析中です。啓発活動はエコメッセちばや船橋市環境フェアなどへのブース出展や、市内施設でのパネル展示などをおこなっています。現在会の活動は、千葉県環境財団の環境再生基金助成事業と、坪井湿地を復活する会との共同事業に対して日本生態系協会の関東水と緑のネットワーク支援事業の助成を受けて活動しています。

八千代市の皆さまには2020年にヘイケボタルDNA分析用サンプル提供に協力いただきありがとうございました。今後も情報交換活動交流をさせていただきたいと思っています。よろしく願いいたします。



▲2023-10-15 エコメッセちばにブース出展し、来場者や出展団体と交流しました。



▲2023-07-12 桑納川流域生息地で200匹以上のヘイケボタルの明滅乱舞に息のみました。

### 編集後記

今号では、たくさんの親子の姿に触れることができ、子ども時代の体験がいかに大事かを知ることができました。八千代オイコスのホームページに詳細をアップしていますので、どうぞご覧ください。(J-TANA)



発行責任者：金室 彰

事務局&問合せ：小林和幸 (090-1842-8738)

mail : info@yachiyo-oikos.jp